



震災復旧事業の総仕上げ

鏡石町長 遠藤 栄作

あけましておめでとうございます。町民の皆様には、新春を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素は町政に対する温かいご理解とご支援を賜り心より御礼申し上げます。

現在、町では第5次総合計画におけるまちの将来像「かわる、かがやく、」牧場の朝“のまち かがみいし”の具現化に向け、「やさしさとふれあい」「復興と進化」を基本理念としてまちづくりを進めております。東日本大震災から4年9カ月あまりが経過いたしました。昨年、復興のための事業として位置付けました被災者の生活再建のための「災害公営住宅」は3月に完成となりました。2カ年にわたって実施する「鏡石中学校の校舎耐震補強・大規模改修事業」に着工し、教育環境の整備と安全性の確保に努めております。また、進化のための事業として位置付けました「駅東第1土地区画整理事業」につきましては、保留地の宅地分譲を始めました。安定的な水源を確保するための「第5次上水道拡張事業」につきましましては、新浄水場予定地の敷地を確保しました。

このように復旧復興事業は確実に進んでおり、復旧事業は放射性物質の除染事業を残すのみとなりました。本年は、復興のための事業として、「鏡石中学校校舎の耐震補強・大規模改修事業」を完了させます。また、進化のための事業として、「駅東第1土地区画整理事業」、「第5次上水道拡張事業」の継続と「農地のほ場整備事業」「農産物の6次化等の取組」「5年目を迎える田んぼアート事業」などを推進したいと考えております。国において、東京一極集中の是正と人口減少と地域経済縮小の克服をすべく、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」が閣議決定されました。本町においても、人口の現状と将来の展望を示す「人口ビジョン」と5年後を目標とした「総合戦略」の計画策定を進めております。「若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現」「東京一極集中の歯止め」、「地域の特性に即した地域課題の解消」の3つの視点で「しごと」と「ひと」の好循環を実現するための目標を設定して取り組んで参ります。

これからも町民の福祉向上に最善を尽くして参りますので、本年も格段のお力添えを頂きますようお願い申し上げます。結びに、町民の皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。新年のごあいさつとさせていただきます。



「住んでみたくなる町」の情報発信

鏡石町議会議長 渡辺 定己

謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

町民の皆様には厳かな冷気が身を包む中、ご健勝にて新年をお迎えのことと心より、お慶び申し上げます。平素から議会活動には、多大なるご支援、ご協力を賜り、厚くお礼を申し上げます。

さて、東日本大震災から5回目のお正月となりますが、町内の仮設住宅も徐々に集約され、災害公営住宅が建設されるなど、復旧復興事業は確実に進んでいるように感じられますが、福島原発事故による放射能問題については未だ、仮置場の設置が未完了の地区もあるなど、多くの問題が指摘されており、不安な気持ちを払拭できずに、新年をお迎えになられた方もいるのではないのでしょうか。

町議会は昨年8月に選挙が執行され、9月から新人2名を含む新たな議会構成となりました。私も議長に再任され引き続き、町議会を代表する役割に就くことになりましたが、その職責の重さを日々痛感しております。今後とも議会の活性化に努めるとともに、町執行や関係機関へ町民皆様方の生の声をお届けできるように、議会一丸となりまして取り組む所存であります。

近年町では、『田んぼアート』や『牧場のあーさー』など『鏡石ブランド』を高める事業を展開しており、交流人口が年々増加していることは喜ばしい限りです。こうした事業を通じて町の情報発信力を高め、より多くの人が本町を訪れるようになることを望むものです。そして町内を見て歩き、食べて歩き『牧場の朝のまち』に住んでみたくなる。地方創生事業がスタートした今、情報発信力が今後のまちづくりにとって、重要な施策の一つになると考えております。

国内ではTPPや消費税軽減税率など経済問題が、国際情勢ではフランスや米国でのテロ事件など、日々多くの事件や問題が報じられておりますが、地方議会としても視野を広く持ちながら、足元の行政課題にしっかりと取り組んで参る所存であります。

年頭に当たり、町民の皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げますとともに、今年もより一層のご支援を、お願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。